

第5回

# 医療・介護・地域職種を問わず 人材交流が地域連携につながる

野末洋 ● 医療法人啓和会 野末整形外科歯科内科 院長

## 地域包括ケアに向けて 在宅機能と病診連携を強化

当院のある川崎市川崎区の高齢率は19・3%で、全国平均の17・8%を上回っている。高齢化

率と要介護認定数は比例するため、この地域では今後も介護を必要とする人は増え続け、ピークは35年とも50年とも言われている。また、川崎区は市内でも高齢者の単身世帯数が最多で、見守りの需要も増えていく。もともと、救

急の通報や押し売りに入られた時の非常時の通報、強盗、火災、ガス漏れ監視、安否確認などについては、警備会社などの見守りサービスでも対応は可能。問題は病気になる時の対応だ。体調を大きく崩すと通院できなくなる。

こうした状況を迎えても患者さんが住み慣れた地域で必要な医療を受けながら生活できる仕組みが、地域包括ケアシステムである。当院では同システムの要とも言える「かかりつけ医」機能を高めるため、昨年から機能強化型在宅療養支援診療所として登録し、在宅部門を強化している。加えて、

図1 地域病院との連携強化に向けた医師の確保と交流

内科	2000年	消化器内科	担当医が外来と訪問診療スタート
	2009年	小澤医師が連携病院消化器病センター内視鏡室	勤務開始
	2010年	消化器内科	担当医 入職
	2012年	呼吸器内科	担当医 入職
	2014年	呼吸器内科	担当医 入職
整形外科	2015年	消化器内科	担当医 入職
	2012年	整形外科	担当医 入職
			担当医 入職

図2 病院との連携強化の目的

- 1 患者様の情報共有
- 2 入院から在宅医療までシームレスな連携
- 3 啓和会と地域病院の連携による啓和会のブランド化

日頃から患者さんの健康や病気に関する相談を受けたり、専門的な検査や治療が必要な場合は紹介状を書いたり、病状が安定したら逆紹介をしてもらう、病院との連携にも力を入れている。これに関しては以前紹介した

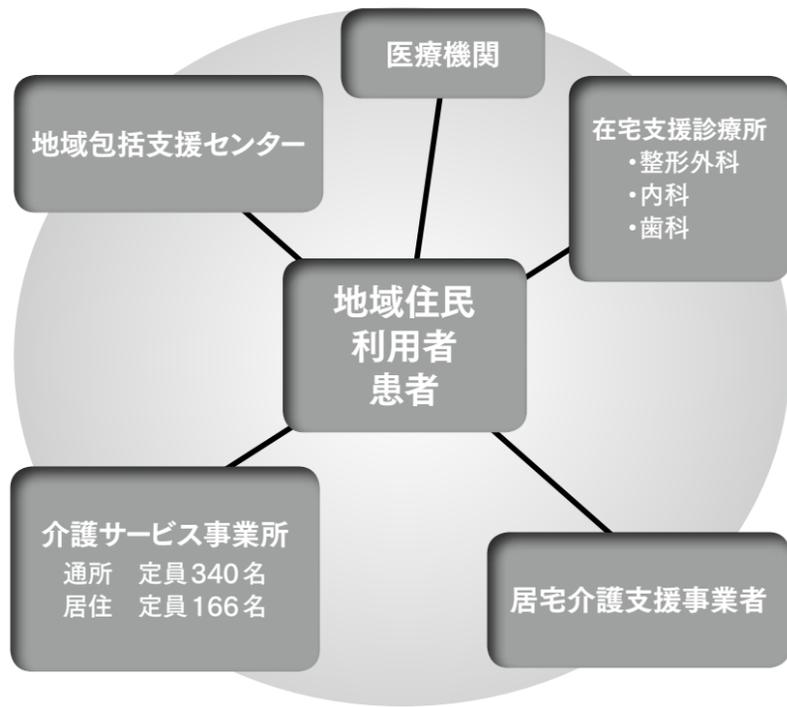
が、小澤副院長が連携病院の消化器病センター内視鏡室に勤務したことをはじめ、病院の医師を受け入れられたり、こちらの医師が病院に勤務したり、当法人と病院の医師との人事交流を活発に行っている(図1・2)。かかりつけ医機能と連携を強化し、患者さんが必要な医療を地域で受けられる地域完結型医療に向けた仕組みづくりを進めているのだ。

## 地域との良好な関係は 掃除や挨拶から始まる

病院以外の地域との結びつきについては、グループホームやデイサービスが上手く機能してくれている。当法人では現在7つのグループホームがあるが、そのうちの1つグループホーム東小田は、1階部分が小規模多機能型居宅介護、2・3階がグループホーム(2



図3 啓和会地域包括ケア連携システム



ユニット)という3階建ての建物で、近隣には民家を改造した認知症対応型デイサービスがある。認知症の高齢者が住みやすい地域をつくるためには、地域ぐるみのケアが必要になる。そこで最初に地域の人たちと良好な関係をつくるための「挨拶」に力を入れた。その流れは次の通りになる。

まず朝の掃除の時は、ご近所さん挨拶をする。それをきっかけに、花壇の花や天候などの世間話につなげ、さまざまな話題へと展開。同様に町内会の掃除にも参加し、地域全体との関係性を深めていった。こうした関係性をベースに、芋煮会を開催。現在は毎年の恒例行事となっており、地域の人

が楽しみにしてくれている。ボランティアも率先して引き受けている。率

## すべての在宅ニーズに応える ワンストップサービスの実現

米国には介護が必要な人ができるだけ長く自宅で暮らせるように生活支援・医療・介護のサービスを1拠点で受けられるという仕組みがある。1つのセンターに機能がまとまっているため職種間の連携が取りやすいという。当法人が目指すのはまさにこのシステムである(図3)。そこに日本の地域包括システムが加わり、地域連携

が進むとより強力なケアができると思う。

今後は高齢者の1人暮らしの不安を軽減するための住宅、24時間体制の定期巡回・随時対応型訪問介護看護などに力を注ぐとともに、国の方針である予防やリハビリも強化し、介護保険料のコスト削減にも寄与していきたい。

この4月より内閣府の助成を受けて、保育園を始めた。働く人たちの確保・地域の人たちとの交流にも一役を担ってくれると思う。これまで整形外科医が介護業界に入り、どのようにして発展してきたかをいろんな側面からお話してきた。今後も地域の人からの要望に耳を傾け、必要とされる診療所として発展していきたいと思っている。私のやってきたことが整形外科医のみならず開業医の先生方の参考になれば幸いである。

## のぞえ・よう

1957年、慶応義塾大学医学部卒業、61年、同大学医学部大学院整形外科修了、65年、済生会神奈川病院整形外科部長、77年、国立東京第二病院(現：東京医療センター)整形外科部長、慶応大学医学部兼任講師、83年、野末整形外科開院